

学校評価だより

～最終自己評価～

令和3年2月 発行



珠洲市立宝立小中学校

令和2年度最終期の学校評価として、生徒・保護者・教職員アンケートをもとに自己評価を行いました。2学期にとりましたアンケート結果や自己評価の結果（裏面）を含めて、今後の取組についてお知らせ致します。

今後の取組を進めるにあたっては、ご家庭のご協力をお願いしなければならないものもございます。何卒、本校の教育活動をご理解の上、ご協力をお願い致します。

本校の教育目標 ふるさと宝立の自然や人に学び、たくましく生き抜く子の育成

目指す生徒像 ◇確かな学力を身に付けた子(知育) ◇思いやりがあり心豊かな子(徳育) ◇健康・安全を育み守る子(体育・食育)

本年度重点項目

(1) よく考え、確かな学力を身に付けた子の育成 (2) 思いやりのある、豊かな心をもった子の育成 (3) たくましい体力と気力をもった子の育成 (4) ふるさとを愛する心をもった子の育成 (5) プロ意識をもち、信頼される教師集団

(1) よく考え、確かな学力を身に付けた子の育成

- 学力向上プランの重点「聴く力」の育成を意識した授業実践が行われています。
- ▲家庭学習の取組状況は、児童生徒の意識向上が見られ、改善傾向にあると言えます。しかし、個人差や学年差があります。
- 地域からの学びを児童生徒自身が実感しています。



《改善策》

- ◇考えを伝え合う学習活動に継続して取り組むことができました。また、「自分の考えや意見をもつ」、「自分の考えを理由や根拠とともに伝える」の肯定的回答が増えました。これからも、この取組を定着させて、さらに「話す力」「聴く力」の向上を図っていきます。
- ◇学期の初めに、心構えや具体的取組を提案し、家庭学習に対する意識と共に、特に9年生には受験に向かう姿勢を育てていきます。
- ◇感染症対策をとった上で、行事や校外学習を行うことができました。これからも計画的に行っていきたいと考えています。

(2) 思いやりのある、豊かな心をもった子の育成

- ▲挨拶に関しては、中間評価と同様、教職員と児童生徒・保護者の評価の一致がみられません。
- 「道徳の授業で、思いやりを育んでいる」と考える教職員が増えました。
- ▲「困っている友人を助けることができた」、「自問清掃ができた」、「教職員は児童生徒の内面を理解しようとしている」、「教職員はいじめの未然防止・早期発見に努めている」の項目では、改善の余地があります。



《改善策》

- ◇挨拶を返せるようにはなっていますが、まだ自主的なものにはなっていない児童生徒も多くいます。まず、手本として9年生から徹底させていく必要があり、教職員全員で働きかけていきます。
- ◇道徳は担任や担任以外の乗り入れがしっかりとなされており、少しずつ効果が上がっています。
- ◇「困っている友人を助ける」の評価は全体的に上がりましたが、人間関係を耕す必要がある学年もあります。
- ◇自問清掃の本当の意味合いが浸透するよう、指導していきます。
- ◇トラブルを児童生徒理解の機会ととらえ、面談や普段の声掛けから児童生徒の状況の把握に努めるなど、積極的生徒指導を心掛けます。

(3) たくましい体力と気力をもった子の育成

- ▲5定点についての指導はできているが、実際に児童生徒が取り組んでいると感じる割合にズレがみられます。また、低学年にも、5定点を意識できていない児童がみられます。
- ▲交通ルールはだいたい守られていますが、中期ブロックに緩みがみられます。
- ▲低学年に、好き嫌いの増加がみられました。また朝食はほぼ食べていますが、数名欠食がみられます。



《改善策》

- ◇低学年の乱れがみられるのは、高学年とのネット、ゲーム等の繋がりも影響しているのではないかと考えられます。より効果的で、児童生徒の行動変容に繋がる指導を検討します。
- ◇タスキの着用の徹底、日頃の声掛けをしていきます。
- ◇給食時間を中心とした食育に加え、朝食欠食者には個別指導を行っていきます。
- ☆5定点：起床、就寝、3度の食事 の時間

(4) ふるさとを愛する心をもった子の育成

- 地域教材を活用した授業やG Tの活用を効果的に取り入れるようになってきています。
- ▲特に中期ブロックにおいて、地域の行事にはあまり参加できていません。
- ▲保護者との連絡や広報などをさらに丁寧に行う必要があります。



《改善策》

- ◇学校再開後、ふるさと珠洲科や進路に対する学習において地域との交流をする機会が増えてきています。
- ◇学校行事や地域の秋祭りの中止が大きいようです。イベントの中止は避けられません。外部との交流の機会を意図的に仕組んでいきます。
- ◇学級通信の格差、また配布物が保護者の手元に届いていないことが多くなってきていることが考えられます。メール、HP、学校・学級だよりをさらに活用していきます。

(5) プロ意識をもち、信頼される教師集団

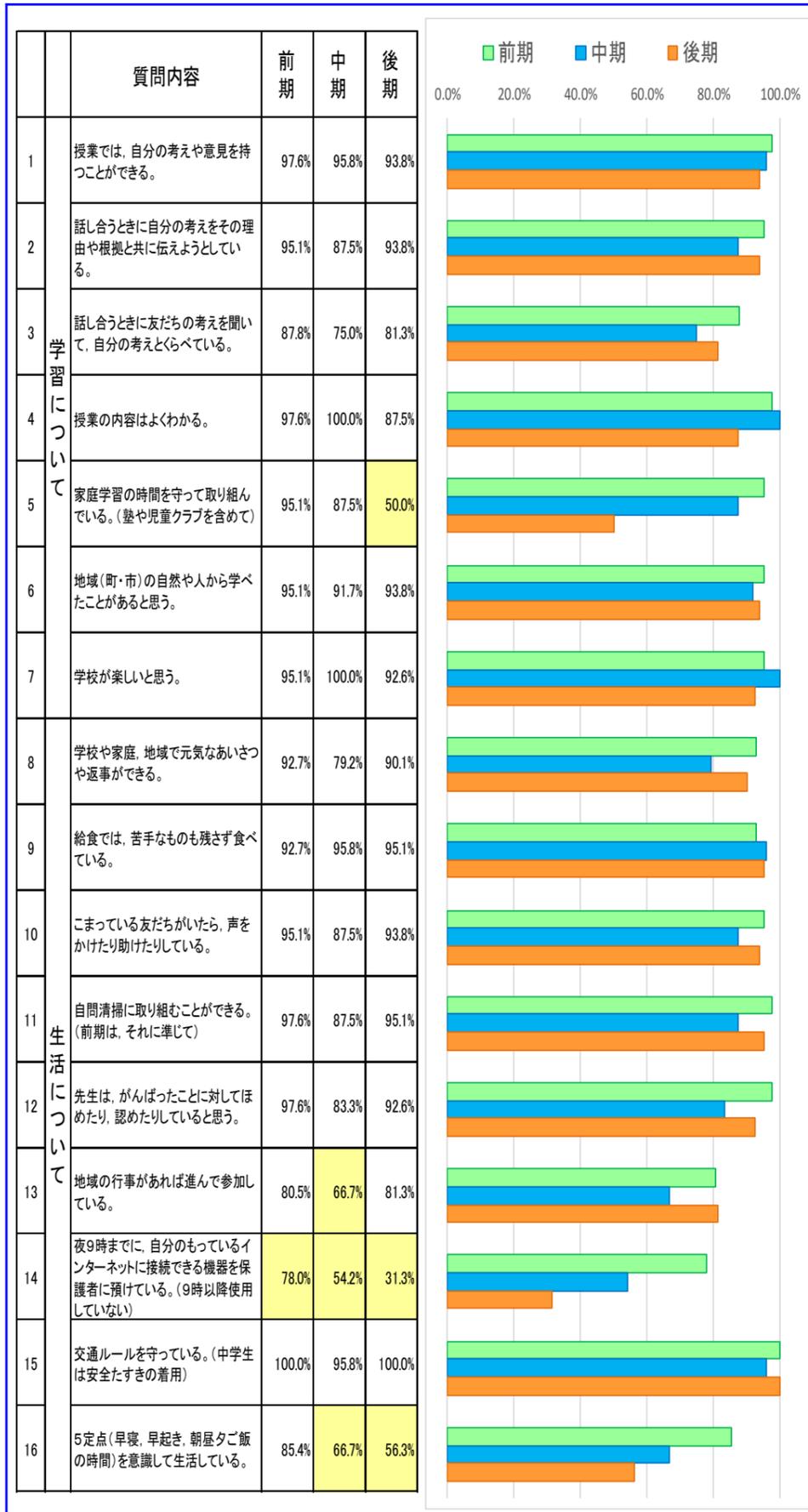
- ▲働き方改革の実践に取り組めていないと感じている教職員が30%以上います。
- ▲中期ブロックにおいて、ほめられていないと感じている生徒がいます。
- ▲前期ブロックにおいて、子どもたちの気持ちや内面を十分に理解しようとしていないと感じている保護者もいらっしゃいます。



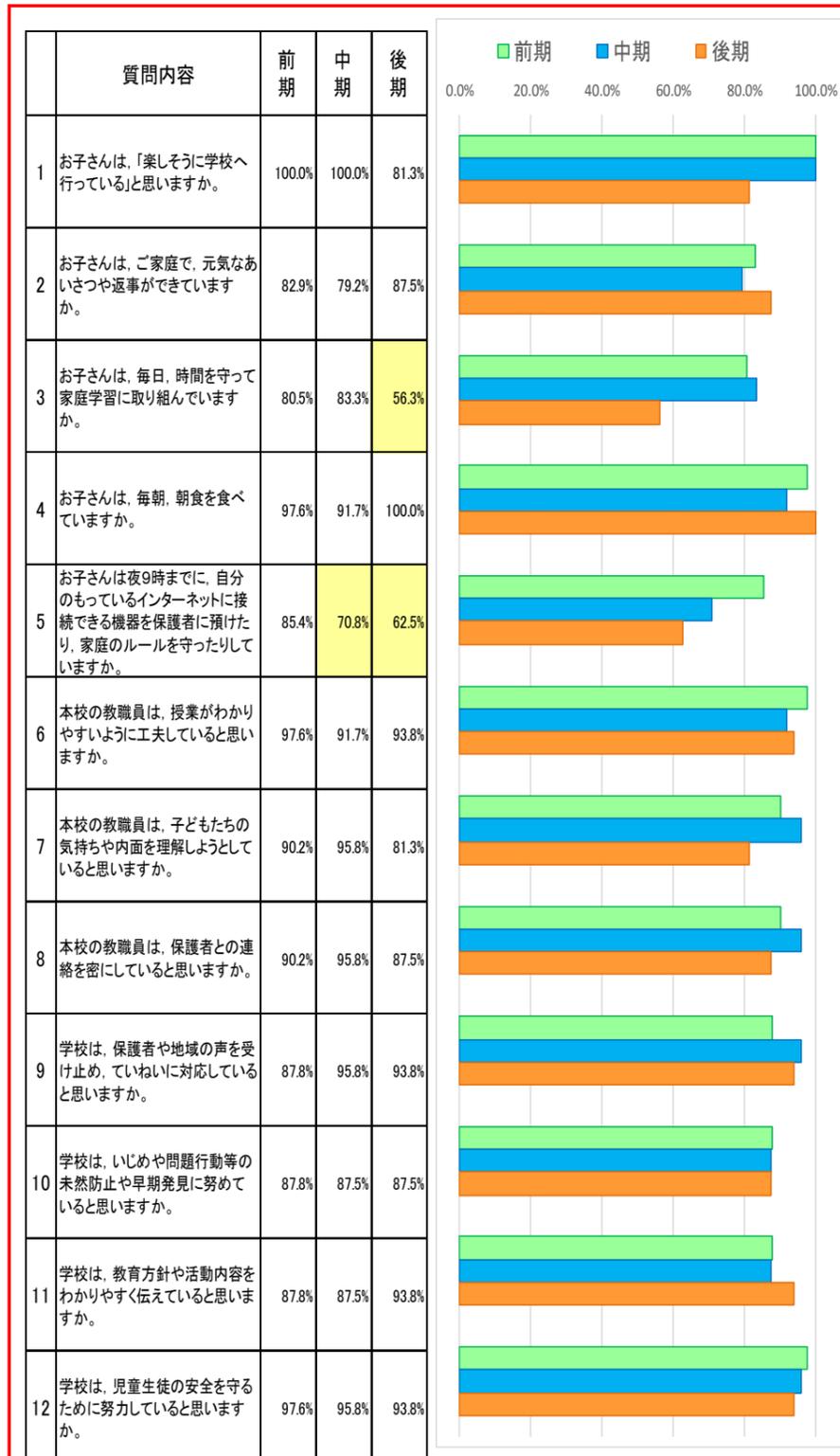
《改善策》

- ◇できる限り長期的な見通しをもち、タイムマネジメントを考えながら業務を行うようにしていきます。
- ◇活躍できる場やほめる場を意識的に設定していきます。
- ◇児童生徒が「楽しい」と思えるような場面設定や安心できるような人間関係づくりをしていきます。

児童生徒アンケート結果



保護者アンケート結果



教職員アンケート結果



肯定的に回答(4または3を選択)した合計の割合を、判定基準の一つとして下記のようにアンケート結果を評価しています。また、C評価と判定した項目(朱書き)については指導・改善を要する内容ととらえ、速やかに改善策を考え対応していきます。

- ☆児童生徒アンケート A(4または3が前期:95%, 中期:90%以上, 後期:90%以上) B(前期:80%, 中期:75%, 後期:70%以上) C(それ以下)
- ☆保護者アンケート A(4または3が90%以上) B(70%以上) C(それ以下)
- ☆教職員アンケート A(4または3が90%以上) B(70%以上) C(それ以下)